ゆうすけ通信

福山市議会・水曜会　平成30年1月号

発行責任者／福山市議会議員 大田 祐介
後援会事務所／〒720-0825
福山市沖野上町3-6-33
TEL:084-932-7855
FAX:084-921-8801

vol.17

「チーム大田三兄弟」スイム慎三、バイク祐介、ラン泰正

スイムは仙酔島からスタートして鞆に上陸、バイク（自転車）はグリーンラインを駆け上がり洗谷に下りて、ランは芦田川河川敷を周回するという「素晴らしくも過酷な」コースでした。

福山で初開催のトライアスロンにリレーの部で参加しました！

メインアリーナとサブアリーナ間の空間を利用して高さ15mのスポーツクライミング壁を建設します！

福山市営競馬場跡地と芦田川の河川空間との一体的利活用を目指します(イメージ図)

新総合体育館と芦田川河川敷の一体利用を推進！

競馬場跡地に建設中の新総合体育館（2020年3月完成予定）と芦田川河川敷を歩道橋で接続し、マラソン大会等のイベント開催やBMXやスケートボード（東京オリンピック新種目）を楽しめる公園を整備する予定です。

「山野峡ワイン」好評です！

自ら6次産業化による地域の特産品を開発しました。

問：㈱福山健康舎　☎084-931-4572

「福山駅を福山城駅に」

市長 経済界などと要望協議へ

福山市の検広直幹市上りや福塩線のホーム長は12日、市議会一般の一部から天守閣質問で、JR福山駅から見える「福山城駅」への改下りホームからは上りホー名、新幹線下りホームの屋根が邪魔し、見えない状態となっている。

枝広市長は「天守閣から全国で一番駅に近い城で、市のランドマークと強調。屋根の改修や改名について「オール福山で必要性や需要をJRに求めていく。駅は城の南部分に位置し、駅北口と天守閣のある国史跡は隣り合う。市は駅前再生ビジョンや築城400年事業、国史跡・福山城跡の保存活用計画の策定を通し、駅に近い城としての活用や情報発信の方法を模索して進体制を協議する方針。（高橋清子）

中国新聞 平成29年12月13日

議会で「福山城駅」を提案

福山市の知名度向上、観光客誘致を狙って「新幹線駅」のみ変更してはいかがでしょうか？賛否両論あるでしょうが費用対効果や話題性は抜群だと思います。

「永遠の四一」を増刷

著書「永遠の四一・歩兵第41連隊の足跡を訪ねて」（560ページ、4,100円税込）を増刷しました。
備後の知られざる郷土史です、郷土部隊の歴史を後世に伝えましょう。購入希望の方は下記までご連絡ください。

編集後記

議員活動も14年となりました。多くの出会いに支えられた年月ですが、この1年は何人もの方を見送ることになりました。皆様に激励いただいた言葉を大切に「初心忘るべからず」で今後も頑張ります。

久し振りのゆうすけ通信発送となりましたので、お名前の間違い・転居等による変更、配信不要の方はご一報ください。

大田ゆうすけ事務所　TEL：084-932-7855　FAX：084-921-8801　メール：orion@urban.ne.jp

水曜会

第43号
平成30（2018）年1月発行
発行者　福山市議会　水曜会
住　所　〒720-8501
福山市東桜町3番5号
電　話　084-928-1123
ＦＡＸ　084-920-1104

ばらのまち福山

十二月定例市議会

本会議は十二月一日開会。平成二十八年度一般会計など12件の決算を認定。また、市役所本庁舎の外壁改修など公共施設の長寿命化対策などの一般会計補正予算案や、県内初の、福山市こころをつなぐ手話条例案など21議案を、賛成多数で可決しました。

公共施設の長寿命化対策や、浸水対策など、安心・安全の実現に、総額35億円余を増額

福山市議会　水曜会の面々

公共施設の長寿命化対策費として、市役所本庁舎・北部市民センター・東部市民センターの外壁改修、また、浸水対策として、手城川流域の浸水対策として、半田池の浚渫工事や内海町の排水場設備改修工事です。

12月補正予算額

１次補正（一般会計・特別会計）	
一般会計	35億8,819万円
特別会計	10億0,520万円
２次補正（総額）	△1億1,884万円
全会計合計	44億7,455万円

県内初、福山市こころをつなぐ手話言語条例案を賛成多数で可決

平成二十三年に障害者基本法が改正され、手話が言語であることが明記されました。

同法では、意志疎通のための手段についての選択の機会が確保されるとともに、情報の取得、又は、利用のための手段について選択の機会の拡大が図られるよう、地方公共団体は、障がい者の自立及び社会参加の支援等のための施策を、総合的かつ計画的に実施する責務を有するものとされています。

本市においても、手話が言語であるとの認識に基づき、手話の理解及び普及に関する施策を総合的かつ計画的に推進する為、条例を制定するものであり、賛成多数で可決しました。

水曜会では「手話への理解の推進及び手話の普及に務める事」「学校教育における手話に親しむ教育活動など、手話への理解の促進に務める事」「手話通訳者の確保、及び養成に務める事」の3点の要望意見を付して、賛成しました。

12月一般会計補正予算（主な事業）　1次分

一般会計（総額）	35億8,819万円
①安心・安全の実現　浸水対策の推進	
水路維持改良事業（手城川流域）	1億0,000万円
耕地施設維持費（神辺町安那地区等）	2,000万円
土地改良区施設維持管理費	260万円
②公共事業等の追加に伴うもの	
公共施設長寿命化対策（外壁改修等）	3億4,380万円
維持補修（土木施設・農林水産施設）	4,700万円
地方創世推進交付事業	1,445万円
芸術・文化活動の充実	580万円
コミュニティの活性化	98万円
寄付金対応	5万円
制度上補正を必要とするもの	29億1,597万円
（財政調整基金積立金　17億6,000万円・国庫負担金等返還金　11億3,677万円・私立幼稚園就園奨励費補助・1,920万円）	
その他（私立保育所・一般委託料等）	1億3,752万円

※２次補正は、人件費等の調整などで1億1,884万円の減額です。

水曜会 受動喫煙防止対策に取り組む!!

東京オリンピックに向けて、国際オリンピック委員会（IOC）が「たばこのない五輪」を推進しています。メキシコオリンピックチームの事前合宿を受け入れる本市として「受動喫煙防止条例」の制定に向けて取り組む必要があります。

特に、子どもの受動喫煙は妊婦の受動喫煙による乳幼児突然死症候群の発生率が有意に高いというエビデンス（医学的根拠）があり対策が急務です。

今後、議員提案による条例制定に向けて取り組みますので、ご理解とご支援をよろしくお願いします。

一般質問に、水曜会から6人が登壇　枝廣市長を質す

十二月議会の一般質問者は、左記の通りです。

○早川佳行　○榊原則男
○連石武則　○木村秀樹
○石口智志　○喜田紘平

詳細は、二月一日発行の「福山市議会だより」に掲載されます。

日本ワインの認定

ワイン醸造タンクをバックに

経済リポート H29年12月1日号掲載
「祐介の目」

「日本ワイン」とは、原料が日本産ぶどう100%であり、日本国内で醸造されたワインにしか冠することのできないブランドである。じつは従来の「国産ワイン」には、海外から輸入したぶどうや濃縮果汁を使用して国内で醸造されたワインも多く含まれていた。そこをはっきり区別しようと国税庁が「日本ワイン」という表示を策定した。同庁の調査では、国産ワインのうち日本ワインに該当するのは全体のわずか18%だそうだ。

私の会社㈱福山健康舎では今年から「備後ワイン・リキュール特区」の適用を受けて2千ℓのワインを醸造したが、本当に長い1年だった。新年早々から雪が降る中の剪定作業、暗渠排水パイプ埋設による土壌改良、春に2千本のぶどうが一斉に萌芽すると目が回るほどの忙しさとなり、摘芯、誘引、草刈りなどの作業に追われた。夏の炎天下の袋かけ、サルなどの有害鳥獣対策、病害虫対策、終わる事の無い草刈り、いよいよ実りが近づけば台風を心配しなければならない。

私も毎日夜明けとともに圃場に出て作業をして日中は議会という生活、地方創生に懸けたその結晶が9月に収穫された。さらに井原市や笠岡市も含む連携中枢都市圏で認定された県境を越える特区の特性を生かし、井原の生産者からもぶどうを仕入れた。6次産業の各分野の課題を身をもって感じている。

実は今年、あらゆる作業が手動の日本一小さなワイナリーを拡大し、本格的な「山野峡大田ワイナリー」を整備した。空気圧で搾汁するプレス機や冷却ジャケット付きの発酵タンクを導入し、より高品質なワイン作りも可能となった。従来からの「ふくやまワイン特区」では販売ができなかったが、これからは晴れて販売も可能となる。12月9日（土）には山野峡大田ワイナリーのお披露目を兼ねて新酒の販売を行う予定だ。市内から約40分、左手に山野小・中学校が見えたらその100m先の右のピンクの建物がワイナリーであり、福山産の「日本ワイン」をぜひご賞味いただきたい。

トップマネジメントセミナー

森光社長を囲む青年部メンバー

経済リポート H29年10月1日号掲載
「祐介の目」

私が所属する商工会議所・青年部はトップマネジメントセミナーと題して毎年「これは」と言う講師をお呼びして講演会を開催している。今年の講師は青年部・研修委員会の委員長として私が選んだが、くりーむパンで有名な三原の㈱八天堂・森光孝雅社長に白羽の矢を立てた。

森光社長とのご縁は、私の会社㈱福山健康舎と八天堂が共にトライスリートの福元哲郎選手を支援しており、その福元選手の仲介により今回のセミナーが実現した。森光社長は実に腰の低い紳士であり、心から尊敬できる方とご縁を頂いたと嬉しく感じた。

さて、9月12日に開催されたセミナーは「事を成すには逆境にあり、事を破るは順境にあり」と題し、波乱万丈の森光社長の半生を赤裸々に語っていただいた。特に3代目社長としてバブル末期に調子に乗って失敗した体験を包み隠さず話され、倒産寸前のどん底を経験する中で親兄弟の支援により再起し、商品をくりーむパン一品に絞り業績をV字回復させるくだりは誰もが惹き付けられた。

親兄弟が力を合わせる事こそ中小企業発展の秘訣であることは歴史が証明していると断言され、参加者アンケートでも9割の方が「とても良い」セミナーと評価された。

多くの企業が新商品開発に向けて日夜努力していると思うが、くりーむパン開発の過程はまさにイノベーションの一種であり、どんな業種にも応用できる考えだった。すなわちスタンダードとスタンダードを掛け合わせる事によりイノベーションが起こった、八天堂オリジナルのくりーむパンが誕生したそうだ。話せば簡単なようだが、開発までに約2年間を要したという。そのくりーむパンで東京進出、全国展開、そして海外進出も果たされた。

9月には森光社長の著書「人生・今日が始まり」がPHPより上梓された。この本は備後の経営者の必読書と言って良いと思う。特に親子で経営方針が合わない、イノベーションのヒントを見つけたいとお悩みの方にお勧めしたい。

北朝鮮ミサイルへの対応

弾道ミサイルの軌跡

経済リポート H29年9月1日号掲載
「祐介の目」

北朝鮮が広島県上空を越えてグアム近海に弾道ミサイルを撃ち込む準備を進めているという。対して多くの日本人は反応が鈍いと感じる。仮に撃ってもイージス艦やPAC3が撃ち落としてくれると期待しているようだ。しかし、万一に備えて津波や台風といった自然災害に対する備えと同等に考えたい。

実際、冷戦時代から世界各国の大都市では、着々と核シェルターの整備がなされている。唯一の戦争被爆国である日本で、核シェルターの必要性や重要性が歴史から学ばれていないのは何故か？広島でも爆心地近くに居ながらコンクリート製建物の中にいたことにより助かった例がある。

戦後72年、非核三原則や憲法9条が核攻撃防止対策であるかのような幻想から脱して、北朝鮮の核ミサイル攻撃恫喝と言う現実を踏まえて、我々日本国民の生命の安全保障の為には、真剣に核抑止力と核シェルターの保有整備を進める時期が到来した感がある。

世界中で最も核シェルターが普及しているのは永世中立国スイスであり、最近まで新築や改築の際にシェルターの設置が法的義務とされていたので、人口800万人に対して114%の収容が可能だそうだ。イスラエルも100%、ノルウェー98%、アメリカ82%、ロシア78%、イギリス67%、シンガポール54%、日本はなんと0・02%だ。

地方自治体で外交・防衛について触れるのはタブーというような雰囲気があるが、最後は自治体の対応が市民の命を左右する。有事に際しては中央政府の計画及び指導にもとづき、地方自治体の指導によって一般市民が主体となって避難、救援活動に従事する「民間防衛」に取り組むべきだ。

福山市で取り組むとすれば、市役所の地下駐車場や駅前地下送迎場や駐輪場、地下通路を核シェルターとして転用できるよう出入口を改装し、空気清浄機や酸素ボンベ、水や食料を備蓄し、万一に備える必要がある。備えあれば憂いなしだが、それができないのが今の日本の現実かもしれない。

福山道路と鞆港フェリー

鞆と走島を結ぶ神勢丸

経済リポート H29年8月1日号掲載
「祐介の目」

福山市内の国道2号は大阪市から北九州市の間で渋滞ランキング2年連続最悪という結果が出た。二原のバイパスが開通したことにより、福山道路（バイパス）の整備は喫緊の課題となった。

しかし、福山道路の全通時期は未定であり、当面事業化された瀬戸ー赤坂間を開通させて福山沼隈道路と合流し、現在の赤坂バイパスから国道2号に流入する車両を草戸町方面にも分散させる方針だ。福山沼隈道路は草戸大橋の下流側に側道の橋脚を建設中だが、本線の草戸町までの開通はまだ数年先になるだろう。

その後に計画されている多治米・川口線の工事には多くの立ち退きや困難な用地買収が見込まれ、非現実的な計画路線のように感じる。しかし、これが開通しないと福山道路は全通しないのだ。

そこで草戸町まで福山沼隈道路が開通した後はその延長方向の鞆街道からリデンローズを右折して産業道路を経由して笠岡方面へ抜けるルートを検討してはどうだろう。さらに松浜のゴム工場が北部産業団地等に移転していただければ、工場跡地から内港を抜けて一気に入江大橋方面に抜けるルート設定も可能だ。いずれにしても実現可能な路線を早急に検討し、計画変更するべきだと考える。

鞆の問題もしかり。埋め立て架橋計画が中止となり、山側トンネル案も課題が多く、鞆の通過交通処理は解決の糸口が見つからない状況だ。そこで、当面の打開策として、鞆の港内に県営のフェリーを就航しても らい、大型車両だけでも県営桟橋から対岸に渡すことができれば、町内の渋滞も緩和され、沼隈半島を観光バスなどで循環する周遊観光も成立する。

フェリーは時代遅れと感じるかもしれないが、鞆港内フェリーこそ新たな観光資源になり、全国的に有名になるだろう。しかも、全国でフェリー航路が廃止されている状況の中、格安フェリーが売りに出ている。何十億円もかかるトンネルより何千万円のフェリーで代替してはどうか。

福山トライアスロン

スタート前の緊張の一瞬

経済リポート H29年7月1日号掲載
「祐介の目」

6月4日、ローズカップ福山鞆の浦トライアスロンが開催され、私もリレーの部に「大田3兄弟」で出場した。弟が仙酔島からスイム1・5㎞、私がバイク（自転車）40㎞、兄が芦田川河川敷をラン10㎞とリレーしたが、特にバイクはグリーンラインの激坂を累積600mも登るハードなコースだった。しかし、美しい瀬戸内海を眼下に、グリーンラインを愛する会や広島県・福山市の尽力により整備されたコースは快適であった。日本トライアスロン連合の役員によれば、日本国内でも屈指のコースとの評価を受けた。

私も特別顧問として準備に係わらせていただいたが、昨年は準備不足により選手募集開始直後に中止となり、今年も方もいるだろうが、1年に1度トライアスロンの迫力を間近に感じれば必ずファンになるに違いない。

言える。開催直前まで色々と気を揉んだが、蓋を開けてみれば大きな事故やトラブルも無く成功裏に終わった。特に選手から「来年も出たい」という声が多数聞けたのは大きな収穫だ。来年度以降も継続できれば、福山市の知名度向上や観光資源としてのグリーンラインの活用、オリンピックの事前合宿の誘致などの好循環が期待される。

さらに2年前に福山市民となった福元哲郎選手の存在も大きかった。二原市役所を退職して私が代表取締役を務める㈱福山健康舎に所属して2年弱、トライアスロンの伝道師として福山市民の関心を高めた功績は大きいと思う。今年9月にはオランダで開催される世界選手権出場も決まっており、活躍次第では「トライアスロンのまち福山」の立役者となるだろう。

最後に、松本実覚事務局長をはじめ大会の運営サイドや選手に同世代が多かった事も嬉しかった。40代~50代が中心となり福山の活性化に汗をかいた成果が必ず現れるに違いない。交通規制等で迷惑を被った方もいるだろうが、1年に1度トライアスロンの迫力を間近に感じれば必ずファンになるに違いない。

福山駅を福山城駅に？

福山駅と一体の福山城

経済リポート H29年4月1日号掲載
「祐介の目」

先日、ドット・ジェイピー（jp）議員インターンシップの大学生を受け入れた。jpとはジャパン・プロデュースの略であり、「未来自治体」という政策コンテストを開催している。「もし、あなたが地域のリーダー（市長）だったら、30年後にどんなまちにしたいですか？」という内容だ。私も福山大学経済学部・税務会計学科の3人の学生と共に参加した。

私たち4人は福山駅前の活性化に焦点を絞り、以下の提案を行った。最初は「駅前学園構想」だ。具体的には約4000人の学生を擁する福山大学と約3000人の学生を擁する老人大学の駅前誘致であり、場所はキャスパ跡地とエフピコ・リムが適している。全国で大学が郊外から中心部に回帰する傾向がある中で、福山大学はすでに駅北側に宮地茂記念館を有し、入試や特別講義を開催している。新幹線のぞみが停車する福山駅周辺のキャンパスには全国から学生の応募が期待できる。

この案の実現の後押しとして、駅前広場の再整備が必要だ。学生の車の所持率は低く交通弱者と言える。

解決策として福山駅前から路面電車（LRT）を走らせれば多くの学生が通学に利用するだろう。学生の普段の足である自転車駐輪場も足りない。利用が低迷している地下送迎場を駐輪場に転用、タクシー待機場をマイカー送迎場とし、タクシーは現在のバス待機場を利用、バスは市役所北側広場にて待機でどうか。

最後に福山城を木造再建し、民間に委託して結婚式等に活用することにより収益を上げて建設費を償還するという案はいかがか。掛川城はこのスタイルにより成果を挙げている。学生が侍の恰好をして観光客を案内すれば京都と同じような雰囲気を醸し出せるだろう。併せて福山駅を福山城駅と改称すれば、本市の知名度は飛躍的にアップする。福山の地名は知らなくても、駅からお城の見える駅は皆知っている。新幹線・小郡駅が新山口駅と改称した前例もあるのだから、大いに議論したいものだ。